



●特集■県政この1年 いわて1994

新たな年に向かって、さまざまな足跡を刻んできた1994年が閉じようとしています。

年間を通じた大きな話題の一つが「米」ではなかったでしょうか。昨年の大冷害と米の緊急輸入問題を背景に、年明け早々、今年の田植え用の種もみ確保のため沖縄県・石垣島で本県オリジナル品種の田植えが始まり、全国的な関心も集めながらの春の収穫が岩手の田植えにリレー。冷夏を予想されながら猛暑の夏を経て、秋の大豊作の中で初のオリジナル品種「かけはし」と「ゆめさんさ」が市場デビューを果たしました。

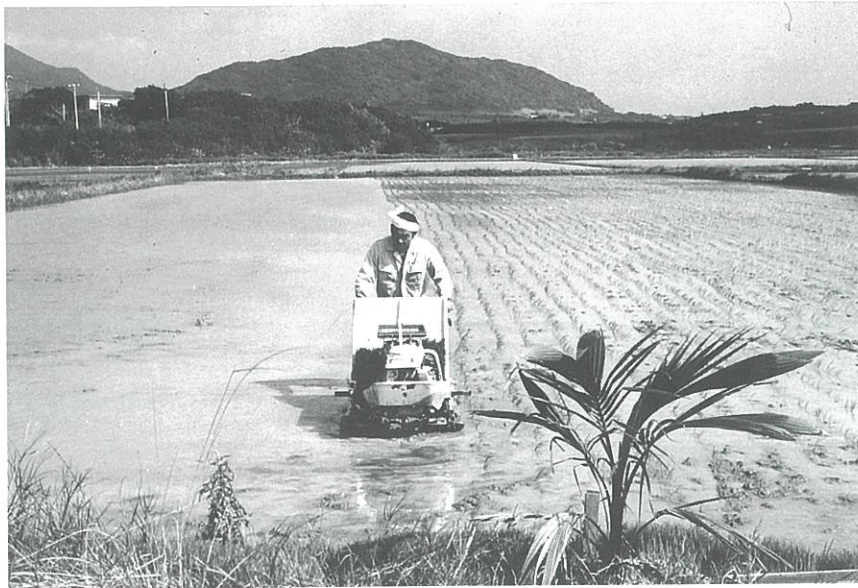
教育の面でも、画期の年といえます。平成10年の開学を目指す県立4年制大学の設置決定や生涯学習拠点施設の着工など“岩手で学ぶ”環境充実へと大きく踏み出しました。

このほか、工業技術センターや水産技術センターなどの開所による試験研究機関の整備充実や首都圏で岩手を売り出す岩手ビジネスプラザ(東京有楽町)のオープンもありました。

全国規模のイベントでは、10月に行われた全国ファミリンピックと全国ボランティアフェスティバル岩手は記憶に新しいところではないでしょうか。

たくさんの出来事がありました。県政を中心に今年1年をざっと振り返ってみました。

- 1・1 穏やかな新年を迎える
- 1・8 沖縄県・石垣島でオリジナル水稲品種「岩手34号、36号」の種もみ緊急増殖事業での田植えが始まる



- 1・12 農山漁村女性の日フェスティバルが盛岡市で開催された
- 1・13 青年の船がマニラに向け出航。この月、少年の船、女性の船が相次いで就航した



- 1・24 効率的で安定的な経営体の育成を目指す「農業経営基盤の促進に関する基本方針」を決定
- 1・28 昨年の世界アルペン開催を記念して、今後のボランティア活動の在り方を探る国際ボランティアの集いが雫石町で行われた



- 1・31 研究所、ソフトウェア業などの集積を促進するための頭脳立地法に基づく、盛岡地域集積促進計画の承認書が熊谷通産大臣から濱田副知事に手渡された
- 2・1 県林業技術センターが、アカマツ材の難燃化に成功。大規模建築の内装材などへの用途拡大に道を開く
- 2・3 地域から景観を考えようと、花巻市で第1回目の景観づくり県民フォーラムが行われた



- 2・5 岩手県Iターン・Uターンフェアが東京・中野サンプラザで行われ、県内企業26社が参加
- 2・9 「いわて農業・農村に、新たなシュプールを描くのは君だ」をテーマに第12回新岩手農業確立青年の集いが盛岡市で行われた

- 2・12 リレハンメル冬季五輪開幕。本県出身の三ヶ田礼一選手が旗手を務め入場行進
- 2・14 地域づくりの実践者5人が知事と懇談
- 2・15 県民総ぐるみでのごみ問題の解決を探る第1回県ごみ減量化・再生利用推進県民大会が盛岡市で行われた



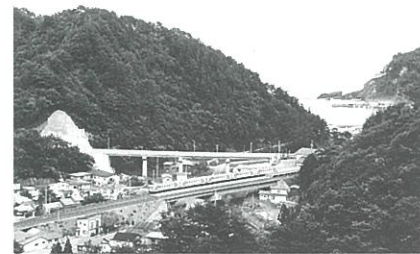
- 2・17 工藤知事が、県立大学の設置構想を発表。平成10年度の開学を目指す
- 2・17 2000年までに確保すべき保健福祉サービスの目標量などを定めた県高齢者保健福祉計画を策定
- 2・22 三陸鉄道で列車が強風にあおられ脱線、転覆し、乗客がケガ(三陸町越喜来)
- 2・25 岩手の名工展を盛岡市で開催



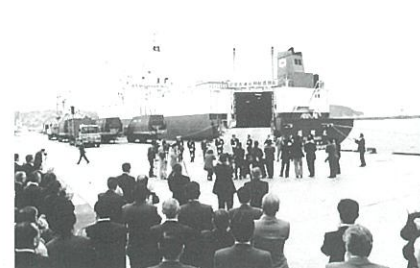
- 3・14 りんごの新品種「きおう」が誕生(県園芸試験場で開発・品種登録)。省力タイプの早世品種。一般消費者には平成8年から
- 3・25 来春の大学等の卒業予定者を対象とした初めてのいわて就職セミナーが盛岡市で開催され、学生約1,600人が参加



- 3・26 明日をつくる子育てシンポジウムが盛岡市内で開催
- 3・29 2月定例会議が総額7,657億円の平成6年度一般会計当初予算案など62議案を可決し閉会
- 3・30 本県の景観施策の基本方針を定めた岩手県景観形成基本方針を策定
- 4・1 皇太子ご夫妻を迎えての全国農業青年交換大会が平成8年本県で開催されることが決定
- 4・1 全国初の第3セクターとして発足した三陸鉄道が開業10周年を迎える



- 4・14 首都圏に在住する本県ゆかりの有識者などから県勢発展へ提言を聴く県外モニターと知事との懇談が東京都内で行われた
- 4・19 本県初の定期貨物航路が宮古港に開設され、定期貨物船・雄興丸が本格就航



- 4・19 工業振興の新たな拠点として従来の工業試験場と醸造食品試験場を統合した県工業技術センターと県立産業デザインセンター(盛岡市)の開所式が行われた



- 4・20 情報産業を支援する第3セクター・株式会社ソフトウェアセンターの創立総会が盛岡市で行われた
- 4・28 オリジナル水稲品種の緊急増殖をしていた沖縄県・石垣島から、収穫されたばかりの種もみが花巻空港に到着

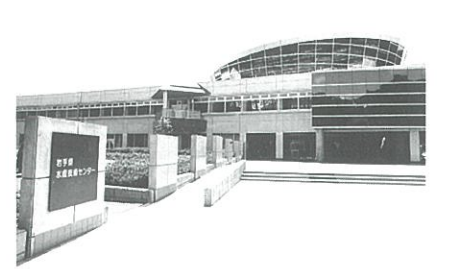


- 4・29 いわて輸入博'94「地球市場」が滝沢村のアピオ(岩手産業文化センター)で開催(～5月5日)。沖縄観光物産展も併設され、期間中25万人が訪れた



- 5・5 「豊かさ指標」とも呼ばれる新国民生活指標(経済企画庁)で、岩手は「育てる」で日本一
- 5・11 駐車・休憩施設と市町村の各種施設を一体的に整備した「道の駅」に「のだ」(野田村)ほか3カ所が追加指定された
- 5・14 平成10年に第23回全国菓子大博覧会の本県での開催が決定
- 5・18 国内消費量3日分(167万㊦)の原油を貯蔵する久慈地下国家石油備蓄基地の完成式典が行われた
- 5・20 岩手大学農学部の本館と門番所が国の重要文化財に指定

- 5・20 水産業に関する技術開発や普及指導を総合的・体系的に実施する県水産技術センター(釜石市)の開所式が行われた



- 5・23 地域づくりの人的ネットワークを広げようと、民間実践グループや学識経験者などが初の会合(岩手県地域づくり連絡会議)
- 5・23 県内の定住促進を目指すいわて就職ガイダンスが東京会場を皮切りに盛岡市、仙台市で開催され、過去最高の参加者を記録する



- 5・24 通信衛星スーパーバードを活用した県防災行政情報通信ネットワークの新システム(4月1日運用開始)の完成式典が県庁で行われた
- 5・25 平成6年度県勢功労者表彰式が知事公館で行われ、元県盲人福祉協議会理事長の菅野長治さんほか5人を表彰



- 5・30 平成10年の開学を目指す県立大学の方向を話し合う初の県立大学整備懇談会が盛岡市で開催
- 5・31 釜石市平田で「海にやさしいみどりの森林(あい)」をテーマに県植樹祭が行われ、関係者約2,100人が参加



- 5・31 本県の工業団地の造成・分譲を手掛けた第3セクター・(株)岩手開発が解散
- 6・4 第32回身体障害者体育大会が県運動公園などを会場に開催され、約700人が参加。アーチェリーなど6種目で熱戦



- 6・9 水環境の大切さについて考える水環境フォーラム'94岩手大会が県民会館で開催
- 6・22 教育振興運動30周年記念大会が県民会館で約2,000人が参加して行われた。生涯学習を運動の柱の一つに据え、新たな発展誓う
- 6・23 折爪岳が県内2カ所目の国民休養地に決定
- 6・24 ワールド・パートナーシップ・フォーラムが滝沢村のアピオ(岩手産業文化センター)で開催され、14カ国の外交官や経済界などからの出席者が冷戦後の国際関係をテーマに論議
- 7・6 6月定例県議会が閉会
- 7・8 平成7年度の政府予算獲得へ向け行われたこの日の統一要望では、工藤知事と議会の代表が関係省庁に117項目にわたる事業の実現などを要望した



- 7・12 県警発足40周年記念合同視閲式が警察官約340人が参加してアピオ(岩手産業文化センター)で行われた
- 7・12 4月の工業技術センター開設を記念し技術立県シンポジウムが盛岡市内で行われ、関係者約500人が参加した
- 7・14 (財)国際超電導産業技術研究所センター超電導工学研究所の盛岡分室(10月1日に盛岡研究所に改称)が、県工業技術センター内に設置され開所式が行われた
- 7・14 首都圏での岩手の情報発信基地として、また、県内企業の営業活動の拠点として岩手ビジネスプラザが東京・有楽町に誕生した

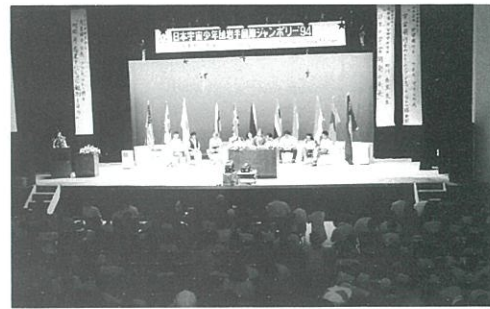


- 7・19 第1回いわて農山漁村生活創造フォーラムが盛岡市で開催され、800人が参加した
- 7・19 首都圏での野菜の流通状況などを研修する「知事と一緒に市場を視察する会」を開催し、東京都中央卸売市場築地市場の視察などを行った(20日まで)
- 7・22 第36回県職業能力開発振興大会が花巻市で行われ、関係者約700人が出席し交流を深めた
- 7・28 県立大学基本構想検討委員会を設置
- 7・30 家族の在り方を考える'94国際家族年記念「家族の未来21世紀フォーラム」が盛岡市で開催され、約600人が参加した

- 8・2 南米移住高齢者里帰り事業で、ブラジルからの招待者7人(7月30日来日)の歓迎レセプションが盛岡市内で行われた
- 8・4 東北横断自動車道秋田釜石線の「秋田自動車道」の一部(北上ジャンクションから北上西インターチェンジまでの8.7kmの区間)が完成し、開通式が行われた



- 8・5 日本宇宙少年団岩手国際ジャンボリーが8日までの4日間、陸前高田市を中心会場に行われた。世界各国から421人の宇宙少年団員が集まり交流を深めた



- 8・5 緑を育てるフェスティバルが松尾村の県民の森で、約700人が参加して行われた
- 8・9 水生生物調査参加人数、本県が4年連続日本一。環境庁が提唱し全都道府県で実施している事業の平成5年度分の調査
- 8・9 平成5年度の県税収入歩合全国第1位(99.0%)。地方行財政調査会発表
- 8・18 皇太子ご夫妻が、避暑と静養を兼ねて来県され、八幡平の茶臼岳を散策されるなどした
- 8・19 この日で盛岡の真夏日が連続38日を記録(最長)。水稻の枯死やプロイラーの衰弱死など高温・干ばつによる農作物被害が県内に広がる
- 8・20 本県出身で現代日本具象彫刻家を代表する一人・船越保武氏の展覧会が県民会館で9月8日まで開催

- 8・22 県老人クラブ連合会創立30周年を記念する県老人クラブ大会が盛岡市で開催され、参加者は高齢者自身による活力に満ち心豊かな社会づくりを誓いあった
- 8・26 「人にやさしく、地球にやさしく」をテーマに、'94いわて住宅祭が盛岡市のアイスアリーナで開催され、1万3,000人を超える人々にぎわった(28日まで)



- 8・26 中型ジェット機就航に向け、来春の完成を目指しターミナルビル増改築の起工式が花巻空港で行われた
- 9・1 県立大船渡病院移転新築定礎式が行われた。県立病院では2番目の規模
- 9・4 救急医療と救急業務への理解と認識を深めてもらおうと「救急医療キャンペーン」の一環として心肺蘇生法普及キャンペーンが盛岡市内で行われた



- 9・4 24時間体制で世界各国と国内各地を結ぶ関西国際空港への路線が開設し、花巻空港から第1便が飛び立つ



- 9・6 年間の真夏日が観測史上最多の48日となる
- 9・6 いわて女と男のさわやかフォーラム'94が盛岡市で行われた



- 9・6 りんどうをはじめ優れた花の産地であることを全国に宣伝しようと、「いわての花キャンペーン」が、東京、名古屋、大阪で行われた。(7日まで)7日には村山首相にりんどうが贈呈された
- 9・9 川崎村で石垣島産の種もみから成長した「岩手34号」の初刈り取り式が行われた
- 9・10 第6回県民長寿体育祭が県内各



- 地の会場で行われ、メイン会場の滝沢村総合公園・陸上競技場に約1,200人の高齢者が参集、力強い競技を繰り広げた
- 9・10 乳製品についての正しい知識の普及と消費の拡大を図る国産ナチュラルチーズ&ミルクフェア'94いわてが、盛岡市の中津川河川敷で開催された(11日まで)
- 9・12 工藤知事が、今限りでの引退を正式に表明
- 9・13 宮古市や大船渡市など沿岸10市町村が三陸地方拠点都市地域として指定。県内2番目の地方拠点都市として企業誘致にはずみ
- 9・15 敬老の日。工藤知事が、花巻市の特別養護老人ホーム「大谷荘」での敬老祭を訪れ、お年寄りの長寿を祝った

- 9・19 大田沖縄県知事を来賓に迎えて、オリジナル水稲品種名称発表会が盛岡市内で行われた。岩手34号が「かけはし」、岩手36号が「ゆめさんさ」と命名され、「いわて純情米」シリーズの話題の品種としてデビューした
- 9・22 国内最大のりんどう産地・岩手にまた新品種誕生。明るい青紫色が特徴の「アルタ」が農水省に品種登録される
- 22 花巻空港開港30周年を記念して空港スカイフェスタ'94が開催。式典と記念講演・シンポジウムが花巻市内で行われ、大型ジェット機の就航が可能なら2,500m滑走路の実現への取り組みを誓った。また、23日は空港を会場に体験フライトなどが行われ、親子でにぎわった



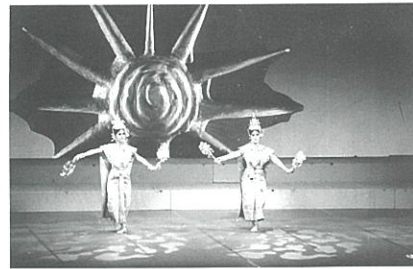
- 9・30 台風24号(9・18~19)、台風26号(9・29~30)が県内を襲う。相次ぐ台風で被害総額が104億円に達する



10・1 公文書公開制度がスタート。公文書の開示と行政資料の閲覧・貸出・コピーサービスを行い、より開かれた県政を目指す。窓口として県庁に行政情報センターを、各庁に情報サブセンターを開設

10・1 森とみどりのフェスティバル（いわて林業祭）が、盛岡市の中津川河川敷と県林業技術センターを会場に行われ、たくさんの親子でにぎわった（2日まで）

10・1 第47回岩手芸術祭が開幕。開幕フェスティバルでは、毛越寺の延年の舞やタイ王立舞踏団の踊りが披露された



10・1 常陸宮殿下同妃殿下をお迎えし、(株)日本青年会議所第43回全国会員大会盛岡大会式典がアピオ（岩手産業文化センター）で行われた。1万5,000人が参加（9・28～10・2）

10・2 '94国際交流フェスティバルが盛岡市内で開催され、県内で国際交流に取り組む市町村担当者らによるパネルディスカッションなどが行われた

10・4 「生涯学習社会の形成をめざす社会教育の在り方を考える」をテーマに、第36回全国社会教育研究大会岩手大会が盛岡市内で開催された。全国から社会教育委員をはじめ関係者約2,000人

が参加した（6日まで）

10・4 5日にかけての北海道東方沖地震（M8.1）で、県内に養殖を中心に12億円を超える被害

10・7 総額111億2,100万円の一般会計の補正予算案などを可決して9月定例県議会が閉会

10・8 秋篠宮殿下をお迎えして、「見つめよう・感じよう・いま家族を」をテーマに、'94国際家族年記念・全国ファミリンピックいわて大会が開幕（10日まで）。盛岡市と周辺市町村を会場に全国から集まった家族が、ソフトバレーボール、卓球など8種目にわたるスポーツ大会で交流を深めた。また、期間中、延べ7万7,000人が各種イベントを楽しんだ



10・12 盛岡市の高松の池に、シベリア抑留平和記念慰霊碑が除幕される。本県関係の犠牲者は1,200人を超える



10・15 清子内親王殿下をお迎えして「幸せづくりイートアップ見つけた」をテーマに、第3回全国ボランティアフェスティバル岩手が盛岡市を中心会場に開催（16日まで）。全国から参加したボランティア実践者が交流を深めた。参加者4万6,000人。1,615人の運営ボランティアが大会をサポートした



10・19 生涯学習の拠点施設・県立生涯学習推進センター（仮称）の起工式が花巻市の県立総合教育センター隣接地で行われた。平成8年春のオープンを目指す



10・20 保健・医療・福祉の連携によるきめ細かな在宅ケアシステムの確立を目指して全国在宅ケアサミット in 遠野が開催された。全国レベルでは初



10・21 第22回いわて農業祭が盛岡市の中津川河川敷などを会場に開催（23日まで）。オリジナル水稲品種「かけはし」と「ゆめさんさ」が一般の店頭で先立って販売され、話題を集めた



10・27 '94エイズ予防県民大会が県民会館で行われ、エイズ予防を呼びかけた



10・28 10・15現在の水稲作況指数が発表される。本県は110の大豊作。107当たりの収量では過去最高となる（東北農政局岩手統計情報事務所）

10・29 首都圏で本県の農畜産物をPRしようとして「いわて牛&いわて純情産地フェア」が東京・代々木公園で行われた（30日まで）

10・29 第2回県障害者文化芸術祭が花巻市文化会館で開催（30日まで）

10・30 岩手県Iターン・Uターンフェアが東京・日本都市センターで行われ、県内企業25社が参加し、222人の県内就職希望者が来場

11・1 沖縄県・那覇市で「岩手県の物産と観光展」を初めて開催（6日まで）。連日多くの市民でにぎわい、現地マスコミでも大きな話題となる。米やリンドウをはじめ会期半ばで売り切れる商品が続出。岩手を大いにPR。



11・2 青少年健全育成中央フォーラムが盛岡劇場で行われ、全国から関係者400人が参加

11・5 職業高校・職業学科に学ぶ生徒が日頃の学習の成果を総合的に発表する場として、第1回県産業教育フェアが滝沢村のアピオ（岩手産業文化センター）で開催された（11.6まで）。入場者11,000人

11・8 酒で地域づくりを考えようとして工業技術センター開設記念・ほろ酔いシンポジウムが盛岡市内のホテルで行われた。酒杯を口にしながらのなごやかシンポ

11・8 地域政策フォーラム「交流の拡大によるイートアップの創造」

が北上市で開催された

11・11 平成7年度の政府予算獲得へ向け行われた統一要望では、工藤知事と議会の代表が関係省庁に122項目にわたる事業の実現などを要望した。

11・14 第17回全国豊かな海づくり大会が平成9年に本県で開催されることが決定。同大会はつくり育てる漁業の推進と沿岸海域の環境保全を目的として開催されるもの。天皇、皇后両陛下が出席

11・17 知事と県政モニターとの懇談会が盛岡市内で行われ、出席した60人からさまざまな意見・提言が寄せられた

11・18 岩手銀行旧本館（盛岡市中ノ橋）が国の重要文化財に指定

11・21 スペースシャトル・コロンビア号に搭載された県旗が返還

12・3 けんみん住宅プラザみずさわが水沢市でオープン



12・9 障害者や高齢者、健常者が文化・スポーツなどさまざまな面から交流できる「ふれあいランド岩手」が盛岡市にオープン



12・11 ふれあいランド岩手を会場に、やさしいまちフェスタが開催。ひとにやさしいまちづくりをテーマにシンポジウムなど

12・22 第22回岩手の県民運動推進大会が水沢市で行われた